



吉川友子後援会報

2019(令和元)年 11 月

あなたとわたし 友&愛

発行：吉川友子後援会
会長 上野昭久
会計 高塚紀之

No 28

幹事長 田村至
事務局長 滝沢さや香



このたびの台風 19 号では、市内でも甚大な被害がありました。被害にあわれた方々やご家族に心よりお見舞い申し上げます。

一日も早く日常を取り戻せるよう、市当局にも働きかけ、議会としても努力してまいります。

大雨警報が出て、短時間で用水などがあふれました。水の勢いというのはものすごく、大木なども根こそぎ流されました。避難所が開設され、すぐ協和地区の避難所へ行きました。桜ヶ丘ふれあいセンター、望月小学校駒の子広場、望月中学校の3か所だけで100人余の方が避難しておられ、何人かと話もさせていただきました。

佐久市が行なっている支援等は別紙のとおりです。ご覧いただき、ご利用いただきたいと思います。防災や避難などに関する多くの課題が明らかになりました。議員としてまた個人としてできることを模索しながら、これからも活動を続けたいと思います。ご意見等ございましたらご連絡いただくと幸いです。

私もメンバーである「もちづきツキ・ヒト満ちるプロジェクト」では、12月24日に「災害復興応援チャリティーコンサート&マーケット」を企画しています。心温まる音楽や手作りの品々に囲まれ、深呼吸のできるひと時をお過ごしいただけたら、と思います。なお、収益は全額佐久市へ義援金として寄付いたします。

(後援会報 28 号の発行が遅れ、申し訳ありません)



望月・片倉区



望月・谷田地区



望月・協西区



五郎兵衛用水頭首工

■佐久市議会に提出された米軍機低空飛行訓練等に関する陳情を一部変更し、全会一致で採択。情報の事前提供や市街地上空の飛行を避けるなどを要望する意見書を内閣総理大臣等へ提出しました。

■以前私が一般質問で取り上げた印鑑登録、印鑑登録証明書の性別記載について、性別を削除するよう印鑑条例が改正されました。

■小児がん等の治療によって予防接種の免疫がなくなってしまう、再接種する場合、今までは全額自己負担でしたが、それに助成金を支給する要綱を制定し、補正予算が可決されました。



県庁で記者会見

・自然保育の推進と支援を目的として、長野県自然保育推進議員連盟が9月24日発足しました。参加議員は23名、代表は百瀬智之県議、吉川友子は副代表に就任しました。



望月中学校・校庭東側道路

ヘアドネーション(寄付)しました。

3年前に引き続き、子どもたちのかつらを無料提供している団体へ髪を寄付しました。子どもたちの笑顔のために、普段は切った後の捨てる髪を使っていただけでありがたいです。

グリホサートに代わる除草剤の研究会に参加

今年8月、木曽の王滝村で開かれた研究会に参加しました。オーストラリア産、天然素材成分除草剤の試験散布が行われました。グリホサート主成分の除草剤に代わって使えるのではないかと期待されています。グリホサート主成分の除草剤は人体に有害だという研究が進み、使用中止を求める消費者の要請活動も盛んになっています。まず、学校や道路脇などは子どもたちにも安全な薬剤に代えていく必要があるのではないのでしょうか。



3時間後の
よもぎの葉



3時間では変化のなかったものも5時間後には葉の裏が茶色になっていた



第二回定例議会が6月6日から7月1日まで開催され、吉川議員は一般質問に登壇しました。(9月議会は次号で)

ゴミ削減の取り組み強化を

(吉川) 平成25年9月の議会で私が質問した際の答弁では23年度ゴミのリサイクル率は20・6%でした。それから7年たちましたが、佐久市におけるごみのリサイクルの現状はどのような状況でしょうか？今後の取り組みについても伺います。

(環境部長) 佐久市では平成27年度から令和元年度までを計画期間とする第三期一般廃棄物処理基本計画に基づき、ごみの発生を抑制するリデュース、使えるものは廃棄せず再利用するリユース、再資源・再資源として再利用するリサイクル、いわゆる3Rの推進によるごみの減量、資源化に取り組んでいます。雑紙を古紙として再資源化を始めたり、埋め立てゴミであった一部のプラスチックをプラスチックごみとして再資源化を始めたりしました。30年度の総排出量は約2万4千トン、その内リサイクルされた量は4千3百トン、リサイクル率は17・8%です。

(吉川) リサイクル率が下がっているのは残念です。使わないという選択、リデュースということが大変大事です。2003年に「ゼロ・ウェイスト宣言」(ごみ自体を出さない社会を目指すという取り組み)をした徳島県上勝町では2016年にリサイクル率81%に達しています。小さな町ですが、世界各国から視察が来るそうです。ここでは、まだ使えそうなものはなるべくシヨップに置き、使いたい人が持っていく。くるくる工房というところもあり、モノ作りが得意の人が、リメイク品を作る場所もあるのです。布おむつスターターセットの配布による焼却ごみの削減もあります。また、NPOが中心となり、ゼロ・ウェイスト認証制度を設け、包装容器の削減などの審査基準をクリアした飲食店などを認定して広報しています。パッケージを削減して量り売りのお店もできました。佐久市も小さなコミュニティから成り立っている市です。できることはやろう！という姿勢で取り組んでほしいと思います。

資源物処理のゆえ

(吉川) 毎日の生活の中でゴミや不要になった資源物がどうなっているのか、知らない部分も多いかと思えます。先ほどの上勝町では、分別の際にそのごみ又は資源がいくらで処理されているか、または買い取られているか、表示してあるそうです。資源物として分別したものはどのように処理されているのでしょうか？

(環境部長) 資源物については、資源Aく

海洋プラスチック問題の研修に参加

今年7月、東京で研修があり参加しました。東京農業大学の高田教授の講演を聴きました。以前から自然界にはないものの大量消費には疑問を感じていましたが、高田先生の話を聞いて、さらに危機感を覚えました。2050年には海中の魚類を上回まわると言われている海洋プラスチック。私たち一人一人の対応と行政の取り組みが大切です。みなさんと一緒にマイバッグ、マイカップ、みつろうラップなど身近なところから始めて、市当局にも取り組み強化を求めています。



東京湾の砂に水を加え、よく振ると、水面に小さなプラスチック片が浮いてくる。海岸ではペットボトルやレジ袋が劣化してマイクロプラスチックになる。将来に支払う代償は大きい。

Eの5分類にわけて収集しています。収集された資源物は種類ごとに市が指定する処理業者に運ばれ、選別、圧縮梱包などの中間処理を行い、リサイクル業者へと運搬されています。資源A古紙類ですが、新聞・段ボールはそれぞれの原料として使われ、雑誌は紙箱の原料となっています。資源B缶・布・紙パックのうち、アルミ缶・スチール缶は缶等の金属製品に再生され、古布・古着は工業用ウエス(機械清掃用の布)の原料となり、紙パックはティッシュペーパーやトイレットペーパーの原料となっています。資源Cペットボトルですが、プラスチック製の事務用品やバッグ、人工芝やスーツ、作業服などの原料となっています。資源Dの雑巾は破碎してカレットという新しいビンの材料となり、新しいビンに再生されています。また、アスファルト舗装にカレットを混入させるなど、建築材にも活用されています。資源E容器等のプラスチックは、工業用パレットなどに使われています。

海で増え続けるプラスチック

(吉川) 第3期一般廃棄物処理基本計画において、一般廃棄物の総排出量を平成25年度比10%削減という目標を掲げています。この目標に達成し、さらには超えられるよう、佐久市ではどのような方法でゴミの減量化をはかっていますか。最近報道されているプラスチックごみは、使う側で減らさない限り減っていかないのです。5ミリ以下のマイクロプラスチックも問題で、すでに塩や人間の便からも見つかっています。海の中のプラスチックはプランクトンの5倍とも言われ、2050年には魚の量を超えるという試算も出ています。プラスチックごみの減量化についてお聞きします。

(環境部長) 平成28年度の軟質系プラスチックを容器包装プラスチックにし、埋め立てゴミの減量化を図っています。

(吉川) 大量生産大量消費の時代は終わりがつあり、次世代に理想的な環境を残すために1人1人が自分の事として考え行動していかねばいけない時が来ました。市当局も子どもたちにとっての地球を渡していくか、市民と一緒に考えてください。

不幸な猫を増やさない活動

(吉川) 最近私も保護猫を世話するボランティア活動に参加しています。捨てられた子猫、飼い主のいない子猫を預かり、新しい飼い主を探してお渡しするというボランティアです。多い時は10頭ぐらい預かっているときもあります。猫も命ある生き物です。最近クラウドファンディングでも話題になっている猫繁殖制限手術費助成事業についてお聞きします。

(環境部長) 飼い主のいない猫の繁殖を防止し市民の快適な生活環境を維持するため、平成24年度より飼い猫を対象に、また平成27年度からは飼い主のいない猫を対象を拡大し、猫繁殖制限手術費補助事業を実施しており、1頭あたりオス3千円、メス5千円の補助を行っています。ボランティア団体のみなさまの積極的な活動に支えられています。

(吉川) 佐久保健所管内で実質上殺処分された猫は、平成29年度25頭、平成30年度は17頭だったということで、減っているのは、去勢手術が浸透している成果だと思えます。殺処分はゼロを目指したいです。地域猫活動支援基金について伺います。平成30年度3月議会において新たに基金が創設されましたガバメントクラウドファンディングで、目標額を超える寄付金が集まりました。今年度の実施状況と寄付金の活用方法について伺います。

(環境部長) 飼い主のいない猫の去勢手術費用に対して補助金を交付する財源として活用していきます。本年度の寄付金額は目標を上回る178万円になっています。

(吉川) 去勢手術は2万5千円位します。5千円の補助をいただいても残りの2万円は持ち出しです。飼い猫の場合はいいても、飼い主のいない猫の去勢活動をしている人たちは、自己負担がとても大きいのです。自己負担額を払えない人や、野良猫の世話でたくさん手術をする人などには補助額を増やすなど検討していただきたいと思えます。

先日は野良猫や飼い主がいる猫を50頭以上も捕まえて殺していたというニュースがありました。手術をしないければあっという間に増えてしまつていうことを、市はもっともっと広報していただきたいと思えます。近年は「多頭飼育崩壊」の危険性も報道されています。あまりに増えてしまつと、結局経済的にも苦しくなるし、人もペットも不幸になってしまいます。佐久市での補助制度の周知を徹底して下さることを要望します。

猫の種別	性別	平成 29 年度		平成 30 年度	
		実施頭数	補助金額	実施頭数	補助金額
飼い猫	オス	134	402,000	90	270,000
	メス	148	740,000	107	535,000
	計	282	1,142,000	197	805,000
飼い主のいない猫	オス	55	165,000	139	417,000
	メス	58	290,000	200	1,000,000
	計	113	455,000	339	1,417,000
合計		395	1,597,000	536	2,222,000

佐久市の去勢手術件数